

## みんな同じ

江津市立江津中学校 1年 川上亜妃

「障がい者」という言葉から、多くの人は「うまく話すことができない」「目が見えない」「耳が聞こえない」ということを連想すると思います。中には、「かわいそう」「気持ち悪い」など、そんなことを思う人もいます。でも、私なりに障がい者の意味を考えてみると、「障がい者」とは、生きていく上でだれかの助けを受けながら成長していく人のことだという答えがうかびました。実際に私の兄も障がい者です。兄は、歌やおどり、神楽や電車など、好きなものがたくさんあります。でも、難しい所もあります。兄は、自分がいつもやっていることがころもがえのように急に変わることが苦手です。そのために、あらかじめ手順書やスケジュールなどを作って、「いつもはこれをやっていただけ、今日はこれをします。」と言うと、「はい、分かりました!」と、すんなり受け入れることができます。このように、苦手なことがあっても、絵や文字で分かりやすく、伝わりやすくしています。

これまでに私は、兄の特性について理解している人にしか出会ってきませんでした。私が初めて兄をさけたりする人に出会ったのは小学三年生のときです。私が友達と自分の部屋で遊んでいた時に、兄が笑顔で入ってきました。私は、「お客さんが来て、うれしいんだな。」と思ったけれど、その友達は、兄を見て「こわいよ。いやだ、助けて!」と私に言ってきたのです。私は、思わずぼうぜんと立ちつくしてしまいました。そして、その場からにげてしまいました。やっと落ち着いた時に、私は友達の前で泣いてしまいました。

「いつも明るく元気いっぱい、私たちを楽しませてくれるお兄ちゃんなのに…何がこわいの?」という思いでいっぱいでした。この時初めて兄に対して、障がい者に対して優しく接してくれる人もいるけど、残念ながらそうでない人もいる、ということ強く思い知らされました。

でも、優しく接したいけれど、どのように接したら良いのか分からない、という人もいます。私は、「障がい者だから」といって、一から十まですべてを手伝ったりするのではなく、その人ができることは見守ってあげて、できなかった所を教えたり、少し手伝ったりしたら良いと思います。そうしないと、その人が本当はできるのに、その力をうばってしまうことになるからです。それが続くと少しのことしかできない人になってしまい、その人の将来までも影響をおよぼしてしまいます。だから、少しでもできることが増えるように、私の兄も、そのほかの人たちも日々がんばっています。私はそのがんばりを応援しています。

私は、「みんな同じ人なんだから」という言葉を忘れることはないと思います。この言葉は、私の母が言っている言葉です。私が障がいについて相談している時に、必ず母が言ってくれる言葉です。私はこの言葉を聞く度に、「そうだよね」と、いつ

も共感しています。障がい者の方も私達と同じ人間なのに、なぜ差別するのだろう、なぜ偏見の目で見たりするのだろうと、今でもずっと思い続けています。多くの人が人生の中で障がい者の方に出会おうと思います。でも、影でこっそり悪口を言うのではなく、温かく見守ってあげてほしいです。そして、もし困っていたら声をかけて助けてあげてほしいと思います。すべての障がい者が快適に暮らしていけるような社会、「共生社会」をつくり上げていくために、障がいの特性について調べてみるなど、少しのことから始めてほしいと思います。障がいがある人、ない人誰もが生きやすい社会を願っています。